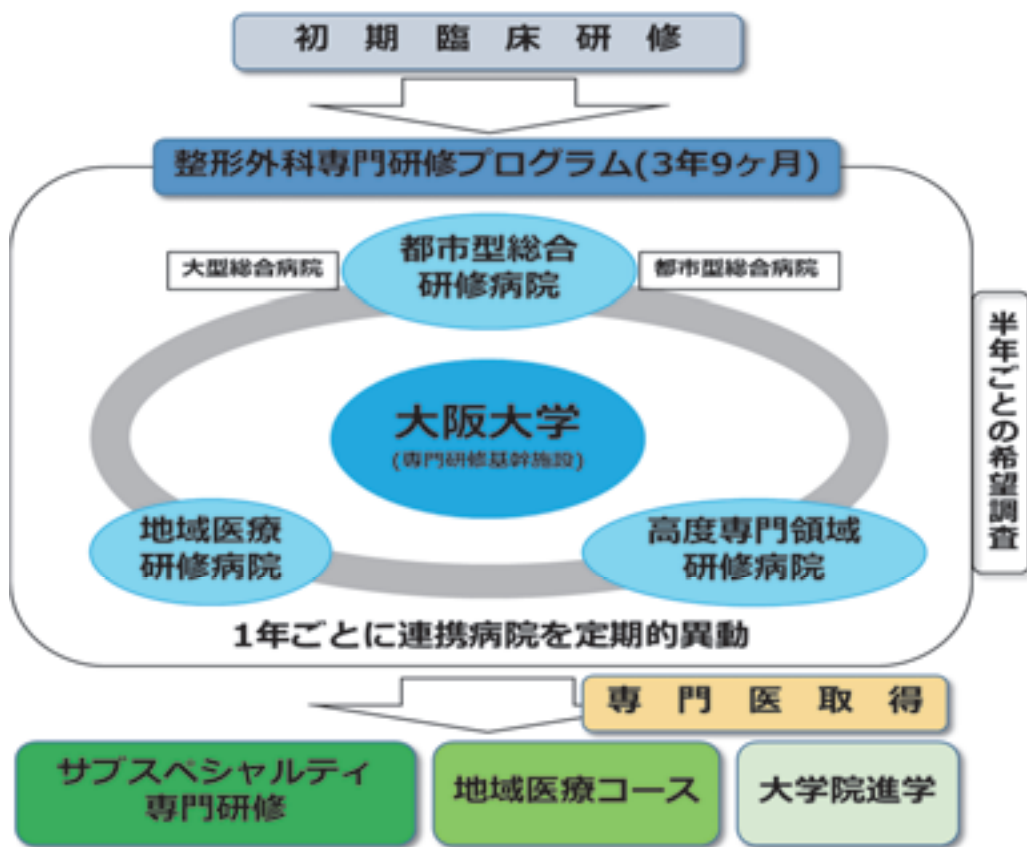


整形外科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

大阪大学整形外科専門研修プログラムでの後期研修の3年9ヶ月間はほぼ1年ごとに病院の定期的勤務異動が行われ、少なくとも4つの病院で研修を受ける。この期間に、術者経験が豊富にできる病院、関節外科、脊椎外科等の各専門分野の研鑽ができる病院に順次赴任することで、幅広い知識を得ることを促している。この結果、3年9ヶ月の研修期間終了時に骨折や一部専門領域の手術ができ、また整形外科疾患の診断と治療方針の決定は分野に偏らず正確に行える一般整形外科医師となる。専門研修プログラム終了時点で日本整形外科学会の専門医試験受験資格が得られる。それ以降は、サブスペシャリティ専門研修、地域医療、大学院での研究の大きく3コースに分かれ、各人が選択する。専門研修、地域医療のいずれも、3～5年間隔で勤務病院を定期的に異動することで、複数の施設での経験を積み、様々な分野で活躍できる医師が育つようにしている。



(2) プログラムの概要

大阪大学医学部附属病院を基幹施設として、下記の都市型総合研修病院、地域医療研修病院、高度専門領域研修病院を1年ごと（一部半年ごと）に勤務異動しながら3年9ヶ月間の研修を行う。

大学病院・医療機関名	専門分野	指導者数	目 的	受入人数	期 間
基幹施設					
大阪大学医学部附属病院	整形外科全般	21名	・各専門分野の診断と治療法決定	10名	半年
都市型総合研修病院					
▼大型総合病院 大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、大阪警察病院、第二大阪警察病院、大阪南医療センター、大阪労災病院、関西ろうさい病院、JCHO大阪病院、ベルランド総合病院、JCHO星ヶ丘医療センター ▼都市型総合病院 神戸掖済会病院、堺市立総合医療センター、市立芦屋病院、市立池田病院、市立伊丹病院、市立貝塚病院、市立吹田市民病院、市立豊中病院、住友病院、西宮市立中央病院、日本生命病院、姫路赤十字病院、箕面市立病院、八尾市立病院、りんくう総合医療センター	脊椎外科、 手の外科、 股関節外科、 リウマチ関節外科、 膝関節外科、 肩関節外科、 スポーツ整形外科、 小児整形外科、 骨軟部腫瘍外科、 リハビリテーション	1～15名 /施設	・各専門分野の疾患の診断と治療法の決定を行えるようにする。 ・一般的な疾患に関しては各種領域の手術も術者として行えることを目標とする。 ・各種カンファレンスでの症例のプレゼンテーションがきちんとできるようになる。 ・症例報告だけではなく手術成績などのまとめの報告を学会などで行い、各種治療法の効用に加えて合併症発生率などの不利益の面や限界を把握することを学ぶ。	50名	1年 (場合により半年)
地域医療研修病院					
尼崎中央病院、大阪刀根山医療センター、河崎病院、関西メディカル病院、北大阪ほうせんか病院、協立病院、協和会病院、近畿中央病院、大阪複十字病院、こだま病院、済生会小樽病院、宝塚第一病院、玉井病院、野崎徳洲会病院、函館五稜郭病院、浜脇整形外科病院、早石病院、阪南中央病院、阪和第二泉北病院、ボバース記念病院、松本病院、守口敬仁会病院、森之宮病院、友誼会総合病院、行岡病院、緑風会病院	骨折を中心とした外傷が主体であるが、腰椎疾患、膝関節疾患などの患者数の多い分野も含む	1～9名 /施設	・骨折に関しては術者ができるようになることを目的として、骨折などの外傷の診断と治療を学ぶ。 ・各種専門分野の疾患の診断と治療方針の決定までができるようになることを目的とする。 ・症例報告などの学会発表を行い、症例について深く理解し知識を深める。	40名	1年 (場合により半年)

高度専門領域研修病院 大阪国際がんセンター、大阪 母子医療センター、南大阪小 児リハビリテーション病院	骨軟部腫瘍外 科、 小児整形外科	2～3名 /施設	骨軟部腫瘍外科学や小児整形外科 学の最先端治療を学ぶ。	3名	1年 (場合によ り半年)
---	------------------------	-------------	--------------------------------	----	---------------------

(3) プログラムの実績

基幹施設および連携施設全体において年間新患数 80,000 名以上、年間手術件数およそ 38,000 件の豊富な症例数を有する本研修プログラムでは、十分な症例を経験することが可能である。また手術手技を 600 例以上経験し、そのうち術者としては 300 例以上を経験することが可能である。各専門分野を偏り無く研修することで、一般整形外科医としての技術・能力が平均的に高い医師が育っている。またその後のサブスペシャリティ専門研修では希望する医師に平等に機会が与えられ、一般整形外科医としての礎の元に、専門性の高い医師が効率よく育っている。

(4) プログラムの指導状況

研修内容に偏りが生じないように、年 2 回の面談と 2 回の書面による研修状況把握と希望調査に基づき人事異動を行っている。また年 1 回、指導者側、研修を受ける医師間の相互評価を行い、研修コースの適正化と研修内容の向上が常に行われるようにしている。さらに大阪大学整形外科が主催する整形外科卒後研修セミナー（年 2 回 12 講演、3 年 9 ヶ月間で 48 講演）に参加することで、専門分野のエキスパートからの多領域にわたる最新知識の講義を受けることが可能となる。また整形外科集談会京阪神地方会（年 2 回）、大阪骨折研究会（年 2 回）での研究発表（研修期間中に各 1 回）を行うことで、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことが可能となる。

(5) 専門医の取得等

資格名	整形外科専門医（日本整形外科学会）
資格要件	各習得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。 臨床医として十分な適性が備わっていること。 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得していること。 1回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として1編以上の論文があること。 認定試験（筆記、口頭）合格。
【学会の連携等の概要】 大阪大学整形外科の研修病院の部長クラスの整形外科医師、大阪大学整形外科にいる整形外科医師が多くの日本整形外科学会認定の講演を行い、地域の医師の教育、若手医師の教育に努めている。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 整形外科

担当者 大堀 智毅  sotsugo@ort.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.osaka-orthopaedics.jp/recruit/>

